

アンケートの集計結果

以下にアンケートの集計結果を掲載します。なお回答のなかった項目については、紙面の都合上割愛しております。

No. 1

- 1) 大学教員，博物館関係の民間企業
- 3) 高田さんの報告は本音も入っており興味深かった。
- 4) なかなかおもしろい議論でしたが，時間切れ感は残りました。
- 5) 直営館の非正規雇用スタッフ，学芸員の問題もあわせて議論する必要がある

No. 2

- 1) 指定管理者博物館・美術館の職員
- 3) 多様な立場からの報告が聞けたのは良かった。
- 5) 指定管理者制度そのものの是非には踏み込まず，受け入れているところから始まったのに多少違和感があった。

No. 3

- 1) 博物館関係の民間企業
- 3) 各立場の方々から色々な観点で話を聞くことができ大変有意義でした
- 4) 自分自身が聞いてみたいと思うことを適切に聞いてくださったので充実していた。
- 5) 役所の人たちの社会における博物館の価値や意義の本当の意味で理解していくことが必要ではないかと思った。役所の人たちならば，市民への博物館のイメージまたは必要性を伝える意義があるように思った

No. 4

- 1) 指定管理者博物館・美術館の職員
- 3) 課題が多いと思いました。特に給与
- 4) 愛媛科学館の本音発言が聞けなかった
- 5) いろいろ考えました

No. 5

- 1) 大学教員
- 3) 全体的によかった
- 4) 時間が短い

No. 6

- 1) 大学教員

No. 7

- 1) 大学生

No. 8

- 1) 一般の方
- 3) 各指定管理者の報告を聴き，特色を生かした取り組み事例を紹介され，参考になったとともに，行きたくなりました。また共通の問題として高いモチベーションを持っていること，そのわりに人件費が低いことが印象に残りました。発表者のうち，都市近郊（野田，高槻，西東京）と地方（宮崎大学，愛媛，松江）に二分される。後者は地方創生，村おこしの一環としてまだ地方の協力を受けているのに対し，前者は財政支出の

優先順位が低く、見捨てられている感じがしました。

- 4) 指定管理者制度はある種派遣労働者や福祉の専門職の給与が低いことと背景、状況が似ていると考える。昭和時代のような賃上げの手法もとれず、現在のアベノミクスからも取り残されている。この種の「労働問題」をテーマにしたシンポジウムをぜひ法政大学で聞いていただきたいと希望する。
- 5) 指定管理者制度は、博物館、美術館の他、スポーツ施設や図書館などでも実施されている。それぞれ成功例や問題点が出てきている。今後、この種の施設についても発表、情報支援していただける場があるとありがたいと考えています。本日はどうもありがとうございました。

No. 9

- 1) 大学生
- 3) 指定管理者になっても結局行政中心の経営なのではないかと思いました。指定管理のほうが職員が生き生きと仕事をしているような印象を受けました。
- 4) 自然災害が多い中で、建物の修繕はとても大事なことだと思いました。
- 5) 前半のプレゼンがとてもわかりやすかったです

No. 10

- 1) 大学生
- 3) 普段授業を受けている先生の、学芸員としての報告を聞くことができ、とても新鮮で、興味深い内容でした。
- 4) 指定管理者制度について、“ネグレクト”であるとの例えが印象的でした。指定管理者側、施設側、両者の意見を同時に聞くことができた点が良かったと思います。

No. 11

- 1) 大学生
- 3) 人材育成や人件費が全ての博物館施設で言える問題としてあげられるのだと感じた。学芸員の職につくのは難しいと言われているのに、現場は人材に対して問題を多く抱えているのか疑問に思った。

No. 12

- 1) 大学教員
- 3) 現場の実情を聞くことができ、とても有意義な時間となりました

No. 13

- 1) 大学教員
- 3) 各館の今後の方針に関わる要となるテーマが明確に報告されており、比較的に分かりやすい内容が展開されていたと思います。特に『『ビジョナリー経営』の推進』スライドのプレゼンテーション・コントロールに一部問題（おも上の）があったものの全体として円滑に進行されていると思う。
- 4) 全体として現状と課題の「見える化（ビジョナリー化）」ができ、次なるテーマが見えてきたように思います。有意義な会であったと思います。金山先生のスライドはディスカッションを深める礎石になったと思います。
- 5) 「指定学説」に関するワークショップ（又はワールド・カフェミーティング）などを大々的に展開してはどうでしょうか。“コラボレーション”能力の強化こそ、学生に指導していきたい。なお、スタッフの皆様お疲れ様でした。

No. 14

- 1) 公立直営博物館・美術館の職員
- 3) 館の報告は自治体との関係を良くあらわしていた。賃金の確保は大事だと私も思う。あくあびあのお話には納得した。
- 4) 問題は分かったが、それ以上突っ込めなかったのが残念。イヨテツさんの優しいコメントが何とも切なかつ

た。

- 5) 市民町村と館を同じく使うのには無理があると思った。

No. 15

- 1) 大学教員

- 3) とても詳細な報告で分かりやすかったと思います。一方で課題のとらえ方がまちまちで、例えばボランティアとの連携や教育成果の把握などは成果としてとらえられやすい一方で課題としては意識されにくいのではないかと感じました
- 4) 少し論点が絞り切れていなかったように感じました。長崎歴史博物館の方のコメントが的を射っていたように思います。一般化は難しい一方、佐々木先生のおっしゃっていた指定管理者との力関係とか金山先生のおっしゃっていた執務の環境はあったと感じました。
- 5) 指定管理館の方が入館者が多いのは大規模館の導入が進んでいることをましているのではないのでしょうか。自治体でも県立や指定市の導入率が高いようですし、自治体によるネグレクトという話もありましたが若者の夢を食物にして生き延びている施設もあるように感じました。

No. 16

- 1) 大学教員

- 3) それぞれに特徴があり良かったが、やはり予算と行政の連携が課題になっていると思う。また給料があまりに安いと雇用の定着にも関わる。指定管理の協定内容はそれぞれ違うので比較するのは難しい。
- 4) 行政で指定管理がいかに交流することが大切であることが分かった。顔を合わせないと話にならないという高田さんの話が印象に残った。
- 5) 野村工芸社のような展示ノウハウをもった指定管理者が入って運営をやれば入館者数は確保できるが、それなりの金額もかかるので難しい。

No. 17

- 1) 博物館関係の民間企業

- 3) 運営費（委託費）が理由なく改善されない行政側の対応については全国共通していることに驚きと不満を感じました。
- 4) 設置者と指定管理者側が同居しているケース、別居のケースでうまくいっているかいないかがあることに驚きました。指定管理者の給与の安さに本当にびっくりしました。コスト抑制のための指定管理者という安易な考えはやめてほしいと思います。

No. 18

- 1) 大学院生

- 3) 各報告で表やグラフ、図などを用いていたが、レジュメにもつけてくれてもいいと思う。メモがとりにくい。
- 4) 佐々木さんはこの場にいる代表のように話していたが、知識人と大衆は別だと思う。長崎の博物館の方が「この問題は一般化するのが難しい」と語っていたが、一般化するのではなく、個別具体的にどのようなすべきかを考えていくべき問題なのではないかと思う。
- 5) 報告、レジュメの中で「平成～年」が使われていたが、西暦でよいのではないか。野田市郷土博物館については本で読んだことがあり、実際に話が聞けて良かった。この制度の良い点、悪い点の話が出たのは良かった

No. 19

- 1) 地方公共団体の職員

- 3) 指定管理業務の現状と課題がよくわかりました。各発表者が異なる属性を持っているので大変参考になりました。
- 4) 設置者と管理者の情報共有ができるようになればもっとよかったかなと思います。（主要部局の企画財政部

門も交えるなど。)

- 5) 本市でも美術館基本構想を策定中ではありますが、美術館の効率運営と市全体の施設管理の全体最適を考えさせられました。内容の深いフォーラムに参加できてよかったです。

No. 20

- 1) 大学生
- 3) NPO 運営の館の厳しさがうかがえた。経済面と地域共生の面がうまく両立されているのが県と企業運営の館なのかな、という印象だった。(島根と愛媛)
- 4) コメンテーターの佐々木さんの鋭い視点が、1部の発表の総評にもなり、ディスカッションも各館の本音を引き出せていて良かった。
- 5) 直営時代の問題と指定管理時代からの問題を分けた分かりやすい文献があれば提示して頂きたい。

No. 21

- 1) 大学教員
- 5) とても有意義な会でした。ありがとうございました。

No. 22

- 1) 一般の方
- 3) ・財源の収支のきびしさが目立った。博物館はスポーツ施設等に比べて予算がおりのイメージがあったので意外だった。
 - ・うまくいっている、という館には自治体との連携を挙げる例が多かった。現状を知ってるという意味でも、日々の打合せのしやすさについても館内に自治体職員が常駐するのは1つのポイントなのだろう。
- 4) ・金山先生の話にあったが、同じく一館に自治体・企業が同居してもうまくいかないときも多いとのことでどのような方法・システムを入れようとも、結局人の問題なのだと思う。
 - ・パネリストが指定管理者側が多いこともあるがNPO、民間側がガマンしている印象を受けた。
 - ・サービス向上の点は忘れられ、経費削減の手法として制度が使われている印象がある。このままでは良い人材を企業に企業も手を挙げなくなるように思います。何か制度、選定方法などの改善にはたらきかけることはできませんか？

No. 23

- 1) 公立直営博物館・美術館の職員
- 3) 指定管理といっても、多様な形態があることが分かった。指定管理となった企業は人件費が抑えられていてブラック企業化しているのではないか？
- 4) 継続性については、システム上、高まったとするには問題
- 5) 行政としては指定管理は人件費、予算の削減が基本であろう。ただし、住民意見を受け入れ、効率良い運営はできるのはメリット

No. 24

- 1) 公立直営博物館・美術館の職員
- 5) 指定管理は議会で決定される。その議員への働きかけについてぜひとも議論すべき。特定会派か全会派かなど

No. 25

- 1) 指定管理者博物館・美術館の職員
- 3) ・各館ごとの問題やそれに対する向き合い方の事例を多様な角度から知ることができ、大変参考になった。
 - ・自館と共有の課題ひいては指定管理共通の課題と対策が見えた。
 - ・レジュメに各館の基礎データ、管理団体の基礎データもあればより参考になったかと思います。比較考察

する上で。

- 4) ・発表以上に忌憚ない意見が出て非常に面白かったです。
・質問時間などもできれば少し欲しかったです。
- 5) ・学芸員，施設管理・運営，設置者それぞれ立場の違う方々が発表されたのは良かったが，立場が発表の中の自己紹介（とレジュメ）だけでは不明瞭であり，少々混乱しました。ここが明瞭になれば議論もより深いものになったかと。
・講師の皆様。スタッフの皆様にご心より感謝いたします。

No. 26

- 1) 団体の職員
- 3) 定管理を導入するにあたって各種の方式があり参考になった。・どこでも厳しい指定管理料であった。・指定管理者の雇用関係は臨時が多いと改めて感じた。
- 4) ・指定管理を導入するにあたって，設置者と指定管理，価値観のずれ等があってもうまく業務が進んでいる状況等参考になった。

No. 27

- 1) それ以外の博物館関係者
- 3) 館の説明だけの報告者が残念。レベルの統一，論点の統一が必要なのでは？レジュメも統一したい。表グラフを提供してほしい。
- 4) 佐々木氏が効果的。佐々木氏のレジュメ 1-(3) を聞きたかった。指定管理者だからできた展覧会？指定管理でなくてもできるよ。指定管理を美化している。

No. 28

- 1) 大学院生
- 4) 見るのが厳しいほど小さな文字での報告があったので，その点は文字を大きくするなどして対応してほしい。
- 5) 要点集が少ない。もう少し余裕を持って刷ってほしい。数が定員より少ない・ギリギリでは，共同研究者のために持ち帰ろうと思ってもできず，きわめて不便である。改善を望みたい。

No. 29

- 1) 直営博物館・美術館の職員
- 3) それぞれの立場から様々な意見が聞けてよかった。今後の参考になった。
- 4) 論点が整理されていてわかりやすかった。もう少し議論を深める時間がほしかった。
- 5) つめ込みすぎな感があった。もう少し時間的なゆとりがほしかった。

No. 30

- 1) 一般の方
- 3) 現状がよくわかる内容でした。愛媛・吉野作蔵・島根の方の説明がわかりやすく参考になりました。高槻の方の現場あるあるもとても共感しました。
- 4) 議論のポイントが明確で整理しやすい進行でした。いろいろ本音も伺うことができましたが，指定管理者制度に長くかかわっていた者としてはもう少しこの 10 年の流れをふまえてもよかったのではとも思います
- 5) 記録として必要とは思いますがカメラのシャッター音や AF 音が気になりました。講義への集中がそがれます。

No. 31

- 1) 公立直営博物館・美術館の職員
- 3) 県レベルと市レベルで大きく状況が違う。市レベルでも観光地かどうかで違うということも 1 つの理解。
- 4) 時間がない中，ある程度方向性が示されて良かった。

No. 32

- 1) 大学院生
- 3) 指定管理制度における各館の現状や問題点などを今回の報告を通して把握することができたのはとても収穫であった。
- 4) いくつかの論点について様々な議論が聞けたのは良かった。

No. 33

- 1) 地方公共団体の職員
- 3) 設置者、指定管理者、双方の意見をバランスよく聞くことができ、非常に有意義だった。
- 4) もう少し踏み込んだ実際的な話が聞ければよかった。

No. 34

- 1) 大学生
- 3) 各館、運営に試行錯誤していると感じた。もっと行政が館の要望に柔軟に対応すべきと思う。また、館の報告を聴いていると、博物館の運営という面倒事を管理者に押しつけているように思える。
- 4) 館と自治体との提携等、博物館や自治体によって現状が全く異なっていると思った。行政の職員が現場に積極的に顔を出すべきだと感じた館もあった。
- 5) 博物館が置かれている現状がわかった。

No. 35

- 1) 大学生
- 4) 指定管理運営の現状の具体的なことがわかりました。

No. 36

- 1) 大学院生
- 3) リアルな現場の話が多く、とてもよい内容でした。
- 4) 内容、議論の進め方も的を射ていて、ずっと考えていたことを多くの現場の方も同じように問題としていることが心強く感じました。
- 5) この問題はお金の問題が大きいと感じます。しかし、公務員の管理が指定管理に移らざるを得ないなら、その公務員の給与が指定管理者が受け取るのであれば収支がありません。そこが日本の市民社会の甘いところでしょう。また、サービス受益側の市民が、あまりにフリーライダー根性が定着してしまっていることが、必要なものでも自分の欲望を満たさないものには金は払わんという態度につながっていると思います。価値と意味がわかるような、スパイラル型の誘導を続けるしかないと思います。

No. 37

- 1) 大学院生
- 4) 博物館の扱う資料の違いでも、対応や考え方がちがうのではないかと感じました。

No. 38

- 1) 大学院生
- 3) 指定管理の方式（長崎、島根、愛媛式）の話が興味深かった。これからこの業界に身を投じようとする身分なので、指定管理官の学芸員の給与の低さに不安を覚えた。
- 4) 指定管理側の人が多かったが、設置者側の意見も具体的にもっと聞きたかった。
- 5) 指定管理運営の様々な実態を学ぶことができた。

No. 39

- 1) 地方公共団体の職員

- 3) 現状、色々な事例があることはよくわかった。入館者数の増加により、どういった効果をあげているのかという点についてまで踏み込んで考える必要があると感じた。
- 4) 「地域に愛される博物館」とは何か、その答えが出ると設置者と運営者が対等に向き合い、ミッションを共有することにもつながるのではないかと感じた。
- 5) 指定管理が導入され10年経った現在、制度自体がどう評価されているか知りたくて参加しました。現在、博物館の設置業務に携わっているので参考にしたいと思います。設置者の責任は直営、指定管理問わず変わらないと思いますので開館後もその柱が見えなくならないようにしたいと思います。

No. 40

- 1) 大学生
- 3) 全ての博物館、美術館において、職員同士のつながり、地域とのつながりを第一に考え、工夫をこらしていることが分かりました。
- 4) 聞き手としてすごく盛り上がりのあるパネルディスカッションだと感じました。ただ、内容が難しい部分が多く学生である自分にとっては話についていくのが大変なときが多々ありました。学生にも少しわかりやすいような説明も加えていただくとより理解が深まるのではないかと思います。
- 5) “学生の視点から考えられる”内容のシンポジウムがあったら是非参加してみたいです。

No. 41

- 1) 大学生
- 3) 今回は指定管理運営としては館が現状と課題を述べてくださったのがやはり多くの館に予算が足りないという問題があるということが分かった。やはり予算が足りないややりたいことができない、人件費が安くてはモチベーションが低くなるということがあるので行政との調整が必要だと思った。
- 4) パネルディスカッション行ったことによって前半の話でわからなかったことや疑問に思ったことが解決されたのと話を下さった6人が1つの話題について意見をいってくださったことにより似ている点や違った点を比較できたりしてわかりやすかった

No. 42

- 1) 大学院生
- 3) 多様な立場からのご意見、現状報告などを聞くことができ、大変勉強になりました。

No. 43

- 1) 大学生
- 3) 様々な活動をしていることが分かった
- 5) 知らないことが多かったですが少し理解を深められてよかった。

No. 44

- 1) それぞれの館が抱えている問題が違うので同じ指定管理でもそれぞれ違うのだなと思いました。ただ、どの館も金銭面で苦労されているのだと思いました。
- 3) ディスカッションの話が短かったような気がします。もっと話を聞きたかったです。

No. 45

- 1) 大学教員
- 3) 得るものがあつた。
- 4) よくまとまっていて論点が明確だった

No. 46

- 1) 地方公共団体の職員

- 3) NPO運営館と他館では自治体との連携が異なっているとの印象がありました。特にNPO運営館では自治体との話し合いの場が全くなく、厳しい運営をまかわれているという印象です。(自治体から丸投げされているということ)
- 4) 上記同様NPO運営館と他館との温度差が大きいようである。指定管理者側から2名の発言をもらったことがよかった。
- 5) 給与の話が出ているが、NPO館の話が多く、指定管理者側の企業運営館の話をもっとしていただいたらよかったのではないかと思います。指定管理になって入館者が増えたという話と給与が低いという話の2点が大きな話題となってしまっていた印象がある。

No. 47

- 1) 博物館関係の民間企業

No. 48

- 1) 大学院生
- 5) 今回、外部団体運営館が一つもなかったのも含まれていたらよかったと思いました。貴重なお話をありがとうございました。

No. 49

- 1) 大学生
- 3) 全体的に財政権の話がついているように思え、やはり十分な予算を博物館に充ててもらえるように市がどうか理解してくれないのか…と思いました。情報共有って大切ですね…。また、企画や展示も色々挑戦しているんだと知ることでよかったです。
- 4) 館によって状況、抱える問題の違いや、部屋がお互いに解放されているところは職員同士円滑で、完全に分断されている部屋のところは意思疎通ができていないという話が新鮮でした。また、博物館自体、企業や地域との連携が大切だと、改めて思いました。

No. 50

- 1) 大学生
- 3) 自分がどの立場にいるかで見方、評価、あるいは妥協のつけかたが変わってくると思いました。社会学的、心理学的にみると、また違ってくる気がします。
- 4) 近代以降の合理主義・個人主義によって単純にお金になるかならないかで、職業の中での格差が生まれてきていると思います。状況を変えられる、その変化を受け入れられる、そうした人間性の育成が必要なのではないかと思います。
- 5) 博物館現場には「擁護者 (ISFJ)」の方が多いのだと思います。お金より「やりがい」「貢献性」を重視し、そのためにお金といった現実の都合にのまれやすいのだと思います。

No. 51

- 1) 一般の方
- 3) NPO、企業運営の方の生の話が聞けて良かった。NPOの指定管理は難しいのかなというのが正直なところです。
- 4) もう少し「生」の話が聞きたかった。

No. 52

- 1) 大学生
- 3) 博物館、美術館で様々な工夫が凝らされているせいか博物館、美術館を訪れる人々が増えていっていい傾向だと思いました。その反面、問題点などもあり運営は難しいということが知れてよかったです。
- 4) 話が難しいと感じてしまっていたので、もっと色々なことを勉強して、知識を蓄えなければいけないと思

いました。

- 5) 運営という一つのことをとってみても、多方面からの問題と絡んでいることに気づき、運営の難しさを知りました。特に年収の話には驚きました。今日の話は面白かったです。ありがとうございました。

No. 53

- 1) 大学生
- 3) 各館によって様々な問題があった。それが予算であったり市との連携のとれなさであったりであるがどの館も予算に悩まれていることがわかる。直営でなくなったため利益を出す必要があるのが博物館の難しいところであると感じた。
- 4) パネルディスカッションは聞いていてとても興味深いものだった。やはり博物館という施設はその特性から図書館や公民館などの施設よりも行政から対応を後回しにされやすいということが問題となっていた。また学芸員の給与が低いという問題に対してこれを解決しなければ優秀な学芸員が育たない。

No. 54

- 1) 大学生
- 3) このようなお話を聞くことは今までなく、新鮮な気持ちで大きくことができました。各館の運営の体系をきけてよかったです。
- 4) 違った館の間でも、共通している点があったりと、担当の方々が議論しているのを聞くことは、とても興味が出るもので、面白かったです。
- 5) 事前に内容を知って参加することができなかつたので、調べたりして臨んだら、また違う楽しみ方ができたのかと思いました。

No. 55

- 1) 大学生
- 3) 各博物館ごとの指定管理運営における利点及び課題がわかりやすく説明されていた。

No. 56

- 1) 大学生
- 3) 各館ごとの問題や課題が出ていたがやはり老朽化、予算の問題が深刻なものの一つだということが改めて分かった。これから、それらの課題に対して各館がどのように対策していくのか興味がわいた。
- 4) それぞれ違う立場の方々の話を聴けるという貴重な機会だったと思う。そして、それぞれの立場ならではの熱意というのを感じられた。

No. 57

- 1) 大学生
- 3) 各博物館が抱える現実的な問題がよくわかりました。施設、資金による問題の中で、博物館を美しく楽しいものにするという学芸員さんのモチベーションが感じられました。
- 4) 博物館の数値的な現状、抱える問題は無限にありました。学芸員さんの情熱というのはほかの職業にはないようなものでした。

No. 58

- 1) 一般の方

No. 59

- 1) 指定管理者博物館・美術館の職員、博物館関係の民間企業
- 3) 館運営上の問題は沢山あります。各施設の様子を見ても陰と陽、明と暗が著しいと思います。企業側は話は上手ですが、本音ではないですね。

4) 全体を通じて一部の企業さん（乃社さん）の商業的になっている部分がありますね。

No. 60

- 1) 指定管理者博物館・美術館の職員，大学職員，博物館関係の民間企業
- 3) 展示や学芸員の質の向上という話が少なすぎた。この2点の話が少ない，という事が，指定管理者制度への不信感の一因になるのではないか。

No. 61

- 1) 大学生
- 4) 「来ない人をどうするか」という問題点についての話が聞けておもしろかった。

No. 62

- 1) 大学生
- 3) 博物館経営論の授業をまだ取っていないこともありますが，授業で習う中では聞けない指定管理者制度の内情が聞けて興味深かったです。

No. 63

- 1) 大学生
- 3) 指定管理者制度は，国に管理されるイメージがあった。実際は違うというのが何となくつかめた。しかし，博物館だけでの運営には限界があり，自治体に頼る必要もある。あくたびあの問題点については驚かされる。ニュースでよく耳にする「タテ割り行政」の弊害の顕著なあらわれではないかと思う。いずれは国をも巻き込んだ抜本的な改革が必要だと思う。

No. 64

- 1) 公立直営博物館・美術館の職員
- 3) 現状がよくわかり，それぞれの事例，課題がよく検証できました。
- 4) パネリストの話や意見をもう少し聞きたかったです。
- 5) すばらしい内容でとても参考になりました。

No. 65

- 1) それ以外の博物館関係者(公益財団法人の職員)
- 3) 各館とても分かりやすく参考になった。
- 4) 先に論点整理があり分かりやすかった。
- 5) フロアのからの愛媛の科学館の人の話 参考になった。

No. 66

- 1) それ以外の博物館関係者(国立館)
- 3) 各館のひた向きな取り組み 大変参考になりました。
- 4) 価値観の共有の重要性，また指定管理者になったことによる問題と本質的な問題があきらかになっただけのものを分類する視点が必要だと感じた。
- 5) 管理者側だけでなく，自治体側の意見をもっととりあげてほしい。どーしても薄給，施設の不満で論が終わってしまう気がする。

No. 67

- 1) 博物館関係の民間企業

No. 68

- 1) 大学生
- 3) 話はきいたことがありますが、実際に働いている人たちから予算や人件費がとても厳しいときき、改善されていくことを期待します。
- 4) 実際に博物館・美術館に関わってきている方の話なのでとても説得力があり、知りたい所にふみこんで下っていてよかったです。
- 5) 少し長いと感じました。

No. 69

- 1) 大学生
- 3) 博物館を訪れるだけでは知ることのできない、運営側からみた博物館を見ることができたので、博物館の在り方を考える上でとてもためになりました。

No. 70

- 1) 大学教員
- 3) 館、設置者のキボの違いによって様々で休みなしに続いたので、頭を整理しなおして考えていきたい。また報告者がトップの方である場合とそうでない場合での違いもあって興味深い点であった。とにかく現場の声が聞くことが出来有益であった。
- 4) 司会者が実に見事に進行されたこと、有難く思いました。コメンテーターとの連携が上手くとられていましたし、各発表者の方々の選定も良かったと評価します。

No. 71

- 1) 地方公共団体の職員
- 3) 自分の担当している館と比較することができ、参考になりました。

No. 72

- 1) 大学生
- 3) 指定管理者制度について、様々な博物館の方のお話を聞くことができ考え方についてもそれぞれあるんだなということがわかりました。予算等については、社会福祉の為の費用の増加など、事情もあると思うので、行政側の意見も聞けたら良かったです。
- 4) 都合により不参加とさせていただきます。
- 5) 明るくてスライドが少し見づらかったです。

No. 73

- 1) 大学生
- 3) 従業員のモチベーションの管理なども気にかけていることを知り視野が広がった。

No. 74

- 1) その他(公務員)

No. 75

- 1) 大学生
- 3) 各館の指定管理者制度運営の状態を知るきっかけになった。
- 5) 内容が濃くて良かったと思う。

No. 76

- 1) 一般の方

- 3) どれも具体的でご親切な発表でした。
- 4) スマートに論点が示されていたので、効果的な議論になりました。

公立博物館・美術館における
指定管理者制度の調査研究

発行：2016年11月

編著者：金山喜昭

発行所：法政大学資格課程

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

ボアソナード・タワー14階資格課程実習準備室